

コスモス ニュースレター EMC & 安全

Cosmos Newsletter on EMC & Safety

発行日 2017-08-01

No. 89

株式会社コスモス・コーポレーション Cosmos Corporation
〒516-2102 三重県度会郡度会町大野木 3571 番地 2

本社・大野木事業所
<http://www.safetyweb.co.jp/>

記事の配列は、概ね、国際規格を最初におき、米、欧、オセアニア、アジアの順です。

コスモス ニュースレター EMC & 安全

目次

エグゼクティブサマリー Executive Summary.....	2
IEC: 規格解説: CISPR 11 Ed. 6.0 (2016-06) 修正 1 ISM 機器 - 限度値及び測定の方法	3
IEC: 新規格リスト	7
ISO: 新規格リスト	10
国際テーマ: CB スキーム管理会議 横浜で開催	10
国際テーマ: ロシア税関がロシア以外で発行された EAC 証明書の受理を再開	11
国際テーマ: ケニアにおける特定の電気製品に対するエネルギー効率要求事項の適用	11
国際テーマ: シンガポールが RoHS 要求事項を適用	11
国際テーマ: カタールのボイコットによる製品認証への影響はない	12
国際テーマ: コスモス・ニュースから各国認証関連情報を再掲	12
USA: FCC: 無線周波数装置の認可に関する委員会規則の Part 1,2,15 および 18 の改正	13
USA: FCC: KDB: Part 15: 意図的および非意図的放射機器の適合性試験用測定手順は?	21
USA: FCC: 車両用レーダーの使用のための新たな電波の開放	22
USA: FCC: 特定のワイヤレスマイクロホン規則を修正および明確化	22
USA: FDA: 医療機器: 市販前通知の適用除外: クラス II 機器	23
USA: OSHA: 国家認定試験所(NRTL)プログラムの概要 (1/6)	23
USA: DOE: 省エネプログラム: 最近の連邦官報による通知	25
USA: ANSI/UL: 新規格リスト	25
USA: IEEE: 新規格リスト	26
カナダ: 官報通知 SLPB-004-17: ミリメータ波スペクトラム開放: コメント期間の延長	27
カナダ: 官報通知 SLPB-003-17: 残留スペクトラム免許に対する免許枠組み	27
EU: 無線機器指令(1999/5/EC 及び 2014/53/EU)整合規格リスト公表	29
EU: CENELEC の IEC との協力: ドレスデン協定の後継、フランクフルト協定の成立	30
EU: CENELEC: 新規格リスト	31
EU: ETSI: 新規格リスト	32
オーストラリア: 5G モバイルブロードバンドのための 3.6GHz 帯へのアプローチ	33
中国: CQC: 電気自動車用駆動モータシステムの安全認証規則改訂に関する通知	34
中国: CQC: 自動車および安全付属品製品の強制性認証への新規および改訂規格の実施	34
中国: CQC: 電気自動車の伝導充電システム用ケーブルの安全認証への新規格の実施	35
中国: CQC: 食品に接触する製品の安全認証規則改訂に関する通知	35
中国: CQC: UM ヒューズリンクの安全認証への新規格の実施および認証規則改訂	35
中国: 新規格リスト	36
台湾: 発電設備装置規則の制定通知	38
台湾: 3C 二次リチウムモバイル電源、及び 3C 二次リチウム電池/組電池商品関連	38
台湾: 新規格リスト	38
韓国: MOTIE: エアコンなどのエネルギー効率の評価基準の強化推進	39
韓国: 電気用品安全基準の改正訂正告示	40
総務省: 較正期間: 1 年を超え 3 年を超えない範囲内に	41
総務省: 920 MHz 帯小電力無線システム及び 1.9 GHz 帯デジタルコードレス電話	41
総務省: 情報通信審議会 第 3 次中間答申: 「次世代 AI×ICT データビリティ戦略」	42
総務省: 公共ブロードバンド 移動通信システムの高度化に伴う制度整備	42
経済産業省: 「電気用品の技術上の基準を定める省令の解釈」の一部改正が公開	43
経済産業省: 対象・非対象関係、電気用品安全法に関する質問についてに新項を追加	43
経済産業省: JIS の制定・改正: ~案内用図記号などの JIS を制定・改正~	44
厚生労働省: 日本工業規格改訂に伴う薬事法(薬機法)上の取扱いについて等	44
ちよつといっぷく~小クイズコーナー EN 62368-1:2014 の移行期間	12
コスモス・コーポレーション: 自動車部品の耐水試験についてのご案内	28
社長の独り言	45

IEC: 規格解説: CISPR 11 Ed. 6.0 (2016-06) 修正 1 ISM 機器 - 限度値及び測定の方法

CISPR 11 (Ed. 6.0) 修正 1 工業、科学、及び医療 ISM 機器 - 無線周波妨害特性 - 限度値及び測定の方法 が 2016-06 付けで発行。

- 本修正は、CISPR 11 の適用範囲内の機器に対し周波数領域 30 MHz - 1 GHz での妨害界強度の測定のため、完全無反射室 (FAR) を、導入する。本修正は、与えられた FAR 内の検証試験ボリュームに収まる機器からの放射妨害の測定に対する要求事項一式を、規定する。これは、測定分離距離 3 m を規定し、FAR の使用を卓上機器の測定に制限する。
- その他、電磁放射妨害限度値表、測定要求事項関連 で変更があった。

USA: FCC: 無線周波数装置の認可に関する委員会規則の Part ,1,2,15 および 18 の改正

FCC 17-93、ET Docket No. 15-170、第一次報告書及び指令 FIRST REPORT AND ORDER 採択: July 13, 2017 発行: July 14, 2017。官報で発表後、発効する。

- 2015 年に、我々は、無線周波数 (RF) デバイス機器認証プロセスを更新するための包括的な提案を含む規則作成提案通知 (NPRM) を発行した。本第一次報告書及び指令は、それに対する、結論である。本書では、2 つの既存の自己承認手続き(検証及び DOC)を組み合わせ、一本化し、SDoC を設立する。これに対し試験所認定は不要である。
- 又、まれな場合を除いて、表示機能を持つ FCC 認証機器に、永続的な物理的ラベル付けを求める要求事項を実質的に排除し、電子ラベリングを可能にする。
- 我々は、輸入要件の一部を変更し、輸入申告書 FCC Form 740 を提出する要件を廃止する。
- 最後に、我々は、さまざまなサービスで利用されるデバイスの要件を合理化および統合し、テクノロジーおよび業界標準の変化に対応する機敏性を高めるため、測定手順を改訂する。

USA: FCC: KDB: Part 15: 意図的および非意図的放射機器の適合性試験用測定手順は？

- セクション 15.31(a)が、パート 15 の意図的および非意図的放射機器の適合性試験に用いるべき測定手順を、規定している。

EU: 無線機器指令(1999/5/EC 及び 2014/53/EU)整合規格リスト公表

無線機器指令(1999/5/EC 及び 2014/53/EU)整合規格リスト公表

- 今回、新規公表として追加されている規格は 2 件。但し、その中で、条件付きで使用可能な規格が 1 件、条件なしで使用可能な、1 件である。

EU: CENELEC の IEC との協力: ドレスデン協定の後継、フランクフルト協定の成立

- 本協定は、並行投票プロセスを簡素化することを目的としたいくつかの更新を含み、そして、新しい参照システムの導入の結果、ヨーロッパで採択される国際規格のトレーサビリティを向上させる。

経済産業省: 「電気用品の技術上の基準を定める省令の解釈」の一部改正が公開

社長の独り言

平成 29 年 7 月 25 日
濱口 慶一

今年は、梅雨というよりも異常気象と呼んだ方が適切な大雨による洪水で九州や東北の一部に沢山の犠牲者や被害が出ましたが、皆様やご家族の方に被害が無かったことをお祈りいたします。

先日、独立行政法人製品評価技術基盤機構（NITE）様の製品安全セミナーに参加してきました。その中で事故原因の多くに、ファストン端子が報告されており、あたかも事故の主人公的な説明がありましたので、ファストン端子への応援として、NITE の講師の方に追加の説明をお願いしました。私としては、ファストン端子は製品の製造工程上非常に作業をやり易くし、製作時間を大幅に短縮できる非常に良い部品と理解していたので、主犯（？）としてファストン端子が、見られるのを納得できないと思ったのです。

事故の原因を確認しますと、下記のような製造工程における不適切な使用が挙げられました。

- 1、 ファストン端子の雄雌が同一のメーカーの物で無いことが多い
- 2、 ファストン端子の雄側が規定の厚さになっていない薄いものとの組み合わせで使用されている
- 3、 振動の多いところに使用されている
- 4、 ファストン端子の電流容量を超えて使用される

以上のような原因による事故が多いようです。どうか皆様の製品の製造工程におかれましては、ファストン端子の使用に際しては上記のことを回避していただくようお願い申し上げます。

前回も書きましたが、近年の製品安全は、最終的には技術基準や製品安全規格の文言通りに設計すれば良いと言うのではなく、完成品の段階でリスク分析を実施して、ありとあらゆるリスクの可能性を分析し、機器の使用者に対して十分に許容できる範囲の危険に低減した形でないと安心安全とは言えないとされていますので、できる限り NITE 様等が主催の事故報告会には積極的にご参加下さい。

そして、製品開発者またはその関係者が実際に市場でどのような事故が発生しているのか？どのような経緯で事故が生じたのかを沢山の事例と共に知識として脳裏に焼き付け、自社製品のリスク分析時に活用して、機器の使用者に危険を届けてしまわないように注意していただくしかないと思います。一旦事故を起こしてしまいますと、回収作業に非常に大きな負担を企業として強いられるので、製品を設計開発する時点での種々の想定などが非常に大きな意味を持つてくるようになります。機器の周りへの幼児の侵入など、生活様式の変化とともに注意すべきことも変わりつつあるとご理解ください。

また、良い製品は設計時の寿命を無視して長く使用される可能性が高くなりつつあり、長く使用されることで、電気回路のコンデンサーの絶縁不良などでの発火も事故として多くなるので、販売する製品の設計上の寿命も取扱説明書に明記して注意喚起しておくべきと思います。一部の製品では電源入りの LED インジケータランプが製品の使用が一定期間を経過するとフラッシュして、サービスセンターに相談を喚起するタイプの機器も、市場には多くなってきているように思います。これも非常に有効だと思います。それに加えて、規格で強く要求されているわけではありませんが、販売先、使用者の登録把握を如何に正確にしておくかということも、回収に際して大きな経費の負担を回避する良い方法だと思います。後日ユーザー登録がうまくされていないと企業側としても大きな経費の負担につながりやすいので、特に注意が必要に思います。

間もなく 8 月です、梅雨も明け、真夏に入りますが、子供たちは夏休みで自宅にある電子機器と接することが多くなりますので、子供の好奇心での機器の分解などで感電事故などが生じないように祈念して今月は終わります。

● ニュースレターの内容

本誌は、**EMC、安全、及び省エネ (EMC, Safety and Energy Conservation)** 分野に係り、世界の主要機関/地域により実施されかつ電気電子製品デバイスに適合が求められている規格/法規制について、その関連情報を、お届けいたします。

重要情報を幅広く調査、収集、かつ、要約して掲載し、当該分野の最新情報、潮流をすばやく捉えることができるようにいたします。情報源を明示しますので、貴殿の関心により、更に深い調査が可能です。

本誌は各国への技術法規適合製品を試験 認証 開発 管理される部門の方にとり必読の内容です。

- 対象機関/地域: IEC 等国際機関、並びに、FCC, UL を含む米国、EU, CENELEC, CEN を含む欧州、その他オセアニア、及び日本を含むアジアの各地域

- 情報源: カバー対象の機関、地域の Web site、或は情報サービス。又、ご協力のご同意を頂いた日本国内及び米国・欧州・中国・韓国・台湾などの当該分野権威者から提供された情報。

● 本誌購読のお申し込み方法

コスモス・コーポレイション CS 部 (カスタマーサービス部) まで sales@cosmos-corp.com
Tel 0598-30-5225 Fax 0598-30-5571

- 発行: 年間 11 回発行。各号 A4 版、40 ページ前後。

- 価格: 各号 2,000 円 (年間購読の場合 1 年 11,000 円)(消費税込)

● 本誌の内容案内、ご購入案内は、<http://www.safetyweb.co.jp/services/other/publication/>

本誌の記事が正確であるよう最大の努力を払っておりますが、間違いが含まれていることがあるかもしれません。本情報をご使用になられる場合はご自身でもう一度ご確認ください。

株式会社コスモス・コーポレイションは、下記 Web site の運営体からそれぞれ個別の条件の下、Web 情報の引用、転載につき許可を頂いております。翻訳転載された記事の著作権は著作権者に属します。本誌掲載記事の無断転載を禁じます。本誌の複製、再配布は電子的なものを含み禁じます。

国際機関	IEC: International Electro technical Commission	国際電気標準会議
米州	A2LA: American Association for Laboratory Accreditation	米国試験所認定協会
	ANSI: American National Standards Institute	米国規格協会
	FCC: Federal Communications Commission	連邦通信委員会
	IEEE: Institute of Electric and Electronics Engineers	米国電気電子学会
	CSA: Canadian Standards Association	カナダ規格協会
欧州	CENELEC: European Committee for Electro technical Standardization	欧州電気技術標準化委員会
	ECO: European Communications Office	欧州通信オフィス
	ETSI: European Telecommunications Standards Institute	欧州電気通信標準協会
	EU/EC: European Union/European Commission	欧州連合/欧州委員会
オセアニア	ACMA: Australian Communications and Media Authority	オーストラリア通信/メディア局
	NZ: New Zealand Government Radio Spectrum Management	ニュージーランド政府 RSM
アジア	BSMI: Bureau of Standards, Metrology & Inspection	台湾經濟部標準檢驗局
	CNS: Chinese National Standards Online Service	台湾中国国家規格検索システム
日本	METI: Ministry of Economy, Trade and Industry	経済産業省
	MIC: Ministry of Internal Affairs and Communications	総務省
	NPB: National Printing Bureau	独立行政法人国立印刷局
	VCCI: Voluntary Control Council for Interference	一般財団法人 VCCI 協会

Cosmos Corporation is granted the copyright authorization for the reproduction of the Web site information from the above listed organizations with the individual condition. Further use, modification, redistribution of the information on the Cosmos Newsletter on EMC & Safety is strictly prohibited.

コスモス ニュースレター **EMC &安全 (Cosmos Newsletter on EMC & Safety) 2017-08-01 (No. 89)**

発行所: 株式会社コスモス・コーポレイション 松阪事業所 <http://www.safetyweb.co.jp/>

〒515-1104 三重県松阪市桂瀬町 718 番地

発行人: 濱口慶一

編集人: 倉品光雄 iNARTE 認定 Certified EMC Engineer (EMC-002315-NE)

© 2017 株式会社コスモス・コーポレイション Cosmos Corporation

本誌の複製、再配布は電子的なものを含み禁じます。